『第２２回郷土芸能の集い』優秀賞に輝く
第４７回全国高等学校総合文化祭（鹿児島大会）郷土芸能部門の出場権を獲得

１２月１１日に『第２２回郷土芸能の集い』が島根県立男女共同参画センターあすてらすで開催されました。この集いは、郷土芸能を実践している高校の発表の場として郷土芸能の継承並びに活性化を図るとともに、次年度の全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門の出場校を選定する重要な大会でもあります。郷土芸能部門では、「伝承芸能部門」と「和太鼓部門」の２部門があります。本校石見神楽部は、「八衢（やちまた）」を披露し、「伝承芸能部門」で優秀賞に輝き、**２０２３年夏に鹿児島県で開催される第４７回全国高校総合文化祭の出場権を獲得**しました。

本校の神楽は平成２８年から石見神楽同好会として活動を開始しました。学校行事での発表や温泉津温泉での夜神楽公演などの地域を中心とした活動を積み重ね、平成３０年から部に昇格し石見神楽部として活動しています。この７年間に全国高等学校総合文化祭には、平成３０年度の長野大会、令和２年の高知大会の２回出場しています。

現在部員数は総勢９名で、地元の社中に所属している生徒と高校で初めて神楽を経験する生徒とが力を合わせて練習に取り組んでいます。八調子神楽の習得をとおして石見地方の風土を体感し、地元の魅力を再認識しています。伝統芸能と言われるのにふさわしく、ただ派手に自分達の思いのままに舞うのではなく、伝承されてきた神楽の意義を考え、“継承されてきた舞を継承する”という思いで舞台に臨んでいます。

郷土芸能は、地域との密着性が高く、地域のイベントには欠かせないものになっています。新型コロナウイルス感染症の影響で地域のイベントが相次いで中止になるなど生徒の対外的な活動の場が少なくなっていましたが、昨年度から徐々に再開されるようになり、今年度は、感染症対策を行った上で多くのイベントが通常開催されるようになりました。本校の石見神楽部にもそれらのイベントに出演の依頼があり、生徒にとっては多くの発表の場が得られるようになりとても喜んでいるところです。

私もそのいくつかのイベントに参加させていただきましたが、会場には小さなお子さんからご年配の方まで多くの方が来場し熱心に神楽の上演を観ていただいている姿がありました。そこには笑いがあったり、歓声が上がったりして、改めて石見神楽は地域の伝統芸能として、また地域の楽しみの１つとして欠かすことのできないものだと感じました。

一方で課題としては、部員数が減少傾向にあることが挙げられます。多い年には２０名近くいた部員も、今年度は９名です。内５名が３年生です。部員数が減少すれば、演目が制限されたり、演目の内容も変更せざるを得なくなったりします。高校での部活動は伝統芸能を後生に残すという大事な役割も担っていると考えますので、存続の大切さを改めて感じるところです。

１，２年生の中で、石見神楽に興味がある皆さん、石見神楽部に入部し、来年度鹿児島県を舞台に神楽を演じてみませんか。そして来年度、新入生が入部してくれることを期待しています。